

結婚、出産、子育てに関する県民意識調査

詳細分析・資料編

平成31年3月

岡山県

目 次

I 調査の要領

1. 調査の実施

(1) 実施要領	1
(2) 回収結果	1

2. 調査票の設計と集計・分析の方法

(1) 調査票の設計方法	3
(2) 集計・分析の方法	7
(3) 第三群（高校生調査）の特徴	10
(4) 報告書の構成	10

3. 回答者の基本属性

II 第一群調査（一般意識調査）

II-1 最終アウトカム関連の集計・分析

1. 結婚意欲

(1) 未婚者の結婚意欲の強さ	15
(2) 結婚意欲に影響を及ぼす要因	
①年齢	19
②結婚希望の実現見通し	20
③交際状況	21
④結婚観（結婚のメリット・デメリット）	23
⑤家族観・子ども観	29
⑥家族・子どもに対する感受性	32
⑦所得及び労働状態	36
⑧ライフコース	42
⑨妊娠・出産に関する不安	45

2. 理想の結婚年齢

(1) 理想の結婚年齢の有無	46
----------------	----

(2) 理想の結婚年齢	
①理想の結婚年齢の平均値	49
②理想の結婚年齢の分布	50
③理想の結婚年齢の累積分布	53
(3) 理想の結婚年齢に影響を及ぼす要因	54
(4) 結婚年齢の理想と現実の比較	55

3. 結婚希望の実現

(1) 結婚の見通し	57
(2) 結婚の見通しに影響を及ぼす要因	
①結婚希望が実現できない理由	60
②年齢	63
③交際状況	64
④所得及び労働状態	65
⑤ライフコース及びワーク・ライフ・バランス	69
⑥妊娠・出産に関わる不安	71

4. 理想の子ども数

(1) 理想の子ども数	72
(2) 理想の子ども数に影響を及ぼす要因	
①子どもがほしい・ほしくない理由	76
②初婚年齢	81
③結婚意欲および結婚見通し	82
④子ども観及び子どもに対する感受性	84
⑤所得および労働状態	88
⑥ライフコース	93
⑦妊娠・出産に関わる不安	95

5. 現実に持てる子ども数

(1) 現実に持てる子ども数	96
(2) 現実に持てる子ども数に影響を及ぼす要因	
①現実に持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由	102
②初婚年齢	104
③所得及び労働状態	105
④ライフコースおよびワーク・ライフ・バランス	110
⑤出産や子育てに対する職場の配慮	114
⑥妊娠・出産に関わる不安	116

Ⅱ-2 中間アウトカム関連の集計・分析

1. 交際状況と出会いの機会

(1) 交際状況	117
(2) 出会いの機会	119
(3) 出会いの機会に影響を及ぼす要因	
①職縁の産業による差異	121
②学縁の学歴による差異	123

2. 家族観・子ども観

(1) 家族観・子ども観の把握	126
(2) 家族観・子ども観に影響を及ぼす要因	
①社会関係性	130
②家族経験・子ども経験	132
③伝統的な男女の役割分担意識	134

3. 家族・子どもに対する感受性

(1) 家族・子どもに対する感受性の把握	137
(2) 家族・子どもに対する感受性に影響を及ぼす要因	
①社会関係性	141
②家族経験・子ども経験	143

4. 所得及び雇用に関する理想と現実

(1) 結婚生活からみた自分の所得の捉え方	145
(2) 結婚生活を送る上での雇用形態の理想	151

5. ライフコース

(1) ライフコースの志向性の把握	154
(2) 結婚、妊娠・出産、子育てがライフコースに与える影響	156
(3) ライフコースの志向性が定住意識に与える影響	
①暮らしている地域でのライフコースの実現可能性	160
②暮らしている地域に対する定住意識	162

6. 妊娠・出産に関する不安

(1) 妊娠・出産に関する不安と内容	164
(2) 妊娠・出産に関する不安に影響を及ぼす要因	
①年齢	168
②妊娠・出産に関わる医学的知識	169
③妊娠・出産時に助けてくれる人	170

Ⅱ-3 初期アウトカム関連の集計・分析

1. 出会いの機会

(1) 出会いの機会の有無	171
(2) 可能性がある出会いの機会	172
(3) 他者から紹介された結婚	173
(4) 他者から紹介される出会いの機会の利用意向	174

2. 男女の役割分担

(1) 男女の役割分担意識	178
(2) 現実の家事の役割分担	182

3. 女性のライフコースに対する考え方

4. 社会関係性

5. 家族経験・子ども経験

6. 結婚、妊娠・出産、子育てに対する職場の配慮と仕事・働き方の変化

(1) 結婚、妊娠・出産、子育てと仕事の両立に対する職場の配慮	195
(2) 結婚、妊娠・出産、子育てによる仕事・働き方の変化	198

7. ワーク・ライフ・バランス

(1) 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度	203
(2) ワーク・ライフ・バランスと労働時間、収入、職種、職種・産業との関係	
①労働時間とワーク・ライフ・バランス	206
②時間当たり収入と労働時間	207
③時間当たり収入とワーク・ライフ・バランス	208
④夫婦の収入とワーク・ライフ・バランス	209
⑤労働時間と収入による仕事の区分けとワーク・ライフ・バランス	212
⑥職種別の労働時間	213
⑦職種別の労働時間当たり収入	214
⑧産業別の職種構成	215

8. 親との同居・近居と結婚に伴う転居

(1) 親との同居・近居	217
(2) 結婚時の転居	
①結婚時の市町村間移動	224
②結婚時に新居を決めるため重視したこと	226

9. 妊娠・出産に関する医学的知識	228
10. 妊娠・出産時に助けてくれる人	230

資料

1. 回答者の属性	
(1) 本人の属性	231
(2) 配偶者の属性	241
(3) 世帯の属性	248
2. 調査票	254

Ⅲ 第二群調査（子育て世帯意識調査）

1. 子育ての幸福感と負担感・不安感	
(1) 子育ての幸福感	267
(2) 子育ての幸福感の形成	
① 幸福感の形成要因の把握	270
② 幸福感の形成要因と子育ての幸福感との関係	271
(3) 子育ての負担感・不安感	273
(4) 子育ての負担感・不安感の形成	
① 負担感・不安感の形成要因の把握	278
② 負担感・不安感の形成要因と子育ての負担感・不安感との関係	279
(5) 子育ての幸福感、負担感・不安感の形成要因	281
(6) 子育てで幸せ、楽しい、よかったと思うこと	282
(7) 子育てでつらいと思ったり、自信を失うこと	285
2. 虐待の可能性	
(1) 虐待の可能性	289
(2) 子どもを強く叱ったり、つらくあたってしまう理由	291
(3) 総合的にみて、子育てで楽しいと・よかったと思うことと、つらい、負担だと思うことはどちらの方が多いか	293
(4) これからの子育てについて	294
3. 理想の子ども数と現実に持てる子ども数	
(1) 理想の子ども数と現実に持てる子ども数	295
(2) 理想の子ども数より現実に持てる子ども数が少ない理由	297

(3) 第一子出生時の年齢の影響	
①第一子出生時の年齢	299
②第一子出生時の結婚からの経過年数	302
4. 子育ての経済的負担と教育に対する考え方	
(1) 子育ての経済的負担	307
(2) 教育の考え方	
①子どもに受けさせたい教育	309
②教育を子どもに受けさせたい理由	313
5. 子育ての関わり方	
(1) 父親・母親の子育ての関わり方	315
(2) 配偶者にもっと関わってほしいこと	317
(3) 配偶者の子育ての関わり方に対する満足度	318
6. 育児休業の取得状況	321
7. 仕事からの帰宅時間	323
8. 子育てと住居地選択	
(1) 子育てに関連した転居とタイミング	325
(2) 転居の理由と地域間移動	327
9. 親との同居・近居と周囲の子育てサポート	329
10. 子育てに関わる保健・医療サービスとあずかりサービス	
(1) 子育てに関わる保健・医療サービスの利用状況	338
(2) 必要なときに子どもの世話を頼める人	340
(3) 就学前に受けた保育サービス	341
(4) あずかりサービスに対するニーズ	342
11. 子育てに関する不安や悩み	
(1) 子育てに関する不安や悩みの有無	346
(2) 子育てに関する不安や悩みの内容	347
(3) 子育ての不安や悩みについての相談相手、不安や悩みを解消するための情報源	348
12. 地域の子育て環境や地域との関わり	349

13. ひとり親世帯の状況	352
14. 公的な子育て支援サービスの利用状況と利用意向	
(1) 利用状況	354
(2) 利用意向	357
15. 里親制度について公的な子育て支援サービスの利用状況と利用意向	362

資料

1. 回答者の属性	
(1) 本人の属性	365
(2) 配偶者の属性	373
(3) 世帯の属性	380
2. 調査票	384

IV 第三群調査（高校生意識調査）

IV-1 最終アウトカム関連の集計・分析

1. 結婚意欲と子どもを持つことに対する希望	
(1) 結婚意欲	397
(2) 結婚のメリット・デメリット	399
(3) 理想の結婚年齢	
①理想の結婚年齢の有無	403
②理想の結婚年齢	405
③理想の結婚年齢の累積分布	407
(4) 理想の子ども数	408
(5) 子どもがほしい・ほしくない理由	
①子どもがほしいと思う理由	410
②子どもがほしくない、ほしい子ども数が一人である理由	412
③三人以上の子どもがほしいと思う理由	414
(6) 高校生の希望出生率の算出	416
2. 結婚の見通しと現実に持てる子ども数	
(1) 結婚の見通し	418
(2) 結婚希望が実現しない理由	420

(3) 現実に持てる子ども数	422
(4) 現実に持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由	425
(5) 結婚見通しと現実に持てる子ども数を元にした予想出生率	427

IV-2 中間アウトカム関連の集計・分析

1. 高校生が希望するライフコースの影響

(1) ライフコースの志向性と定住意識	
① 高校生の定住意識	429
② ライフコースの志向性	431
③ 希望するライフコースの実現可能性	434
④ ライフコースの志向性が定住意識に対して及ぼす影響	435
(2) ライフコースの志向性と結婚希望	436
(3) 定住意識が及ぼす結婚意欲への影響	
① ライフコースの志向性別にみた移住希望地域	438
② 移住希望地域と結婚意欲との関係	441
③ 定住意識と予想出生率	442
④ 定住・移住に当たって重視すること	444

2. 社会関係性の影響

(1) 高校生が持つ社会関係性の強さの把握	448
(2) 結婚意欲に対する影響	450
(3) 結婚見通しに対する影響	453
(4) 理想の子ども数に対する影響	454
(5) 現実に持てる子ども数に対する影響	455

3. 家族や子どもに関する価値観・感受性の影響

(1) 結婚意欲に対する影響	
① 家族観	457
② 家族に対する感受性	461
(2) 理想の子ども数に対する影響	
① 子ども観	464
② 子どもに対する感受性	467
(3) 家族や子どもに対する感受性に影響を及ぼす要因	
① 「家族経験」と「子ども経験」の把握	470
② 家族に対する感受性への「家族経験」の影響	472
③ 子どもに対する感受性への「子ども経験」の影響	473
④ 社会関係性の「家族経験」や「子ども経験」に対する影響	474
⑤ 社会関係性の家族観・子ども観、家族・子どもに対する感受性への影響	476

4. 妊娠・出産に関わる不安の影響	
(1) 妊娠・出産に関わる不安	480
(2) 妊娠・出産に関する不安が及ぼす影響	
①結婚意欲に対する影響	481
②結婚見通しに対する影響	482
③理想の子ども数に対する影響	483
④現実を持てる子ども数に対する影響	484
(3) 妊娠・出産に関する不安の内容	486

IV-3 初期アウトカム関連の集計・分析

1. 他者から紹介される結婚	487
2. 男女の役割分担	
(1) 伝統的な男女の役割分担意識	489
(2) 結婚生活のための所得に関する自分の役割	491
3. ワーク・ライフ・バランス	
(1) 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度に関する理想	493
(2) 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度に関する現実の予想	495
4. 妊娠・出産に関わる医学的知識	497

資料

1. 回答者の属性	501
2. 調査票	504

V 施策の目標に関わる指標

1. 結婚、妊娠・出産	513
2. 子育て	515
3. ひとり親世帯	520

VI 集計・分析結果のまとめ

1. 第一群調査（一般意識調査）

- (1) 交際状況の結婚への影響…………… 521
- (2) 所得及び労働状態の結婚への影響…………… 524
- (3) 就業構造及び産業構造…………… 527

2. 第二群調査（子育て世帯意識調査）

- (1) 子育ての幸福感、負担感・不安感…………… 530
- (2) 子育てと仕事の両立と子育てサポート…………… 533

3. 第三群調査（高校生意識調査）

- (1) 高校生のライフコースの選択、定住・移住と結婚意欲…………… 536
- (2) 高校生に対する社会関係性の影響…………… 538

I 調査の要領

1. 調査の実施

(1) 実施要領

①調査の構成

本調査は、岡山県民を対象とした第一群から第三群までの三つの調査で構成される。調査の名称は以下の通りである。

第一群：結婚、出産、子育てに関する県民意識調査

第二群：子育てに関する意識調査（子育て世帯意識調査）

第三群：結婚、出産、子育てに関する高校生意識調査

②調査の目的

岡山県内における結婚、妊娠・出産、子育てに関する現状等を把握し、子育て支援施策を推進するための基本的計画である「岡山いきいき子どもプラン2020(仮称)」を策定するための基礎資料とする。

③調査の要領

調査の対象、期間、対象数、方法、調査票の回収結果、主な調査内容を表 I - 1 にまとめた。

なお、標本数は、県民局別に男女・年齢別集計が可能となるよう、下記の統計値等を元に設定した。

第一群：平成 27 年国勢調査の各県民局の男女年齢別人口に基づき設定した。県民局別に標本数を設定し、性、年齢は無作為に抽出した。

第二群：平成 27 年国勢調査の各県民局の「最年少の子どもが 9 歳までの世帯数」に基づき設定した。

第三群：県立高校の二年生・三年生を対象に、平成 29 年 4 月 1 日（進級前）の生徒数に基づき設定した。

(2) 回収結果

各調査の回収結果は、表 I - 1 の⑥に示した。

表 I - 1 結婚、出産、子育てに関する県民意識調査の実施要領

項目	第一群調査	第二群調査	第三群調査
①調査名称	結婚、出産、子育てに関する県民意識調査	子育てに関する意識調査（子育て世帯意識調査）	結婚、出産、子育てに関する高校生意識調査
②対象	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年 10 月 1 日時点で 20 歳から 49 歳の岡山県内在住者 市町村の住民基本台帳から無作為に抽出 	<ul style="list-style-type: none"> 0 歳から小学校 3 年生までの子どもと同居する子育て世帯の親等 保育園、小学校等のバランスと市町村のバランスに配慮し、学校を抽出 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県立高校の二年生及び三年生 県民局ごとに、普通科・職業科のバランスを配慮し、学校を抽出
③調査期間	平成 30 年 9 月 28 日～平成 30 年 11 月 7 日	平成 30 年 11 月 14 日～平成 30 年 12 月 7 日	平成 30 年 11 月 1 日～平成 30 年 11 月 21 日
④対象数	備前局 3085 人 備中局 3253 人 美作局 3382 人 合計 9720 人	備前局 2565 世帯 備中局 2558 世帯 美作局 2511 世帯 合計 7634 世帯	備前局 961 人 備中局 955 人 美作局 974 人 合計 2890 人
⑤調査方法	<ul style="list-style-type: none"> 郵便送付 郵便回収・ウェブ回答 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園・幼稚園・学校等による直接配付 郵便回収・ウェブ回答 	<ul style="list-style-type: none"> 高校による直接配付 高校による直接回収・一部ウェブ回答
⑥回収結果	回収数 2683 件 回収率 27.6%	回収数 3391 世帯 回収率 44.4%	回収数 2577 件 回収率 89.2%
⑦主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> 結婚意欲、結婚の見通し 結婚観、家族観、子ども観 理想の子ども数 現実を持てる子ども数 ライフコースの志向性、定住意識 交際状況、出会いの機会 所得や雇用形態と結婚 男女の役割分担意識、ワーク・ライフ・バランス 結婚・出産・子育てによる働き方の変化 職場の結婚・出産・子育てに対する配慮 地域社会との関わり 親との近居、結婚時の移動 妊娠・出産に関わる医学的知見の認知 妊娠・出産に関わる不安 基本属性 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに対する感じ方 子育てをされていて、幸せ、楽しい、よかったと思うこと 子育てをされていて、つらいと思うこと、自信を失うこと 子どもを強く叱ったり、つらくあたること 理想の子ども数 現実を持てる子ども数 子育ての家計に対する負担 子どもの教育の考え方 子育ての配偶者の関わり方 育児休暇の取得状況 平均的な帰宅時間 子どもが理由による転居 親との同居・近居 保育サービスの利用状況 子育ての不安・悩み 地域社会の関わり 子育て支援サービスの利用 里親制度の認知状況 基本属性 	<ul style="list-style-type: none"> 結婚意欲、結婚の見通し 結婚観、家族観、子ども観 理想の子ども数、現実を持てると思う子ども数 ライフコースの志向性、定住意識、卒業後の移動 他者から紹介された結婚に対する考え方 男女の役割分担意識、ワーク・ライフ・バランス 地域社会との関わり 家族や子どもに対する感受性 妊娠・出産に関わる医学的知見の認知 妊娠・出産に関わる不安 基本属性

2. 調査票の設計と集計・分析の方法

(1) 調査票の設計方法

調査票設計に先立って、「結婚」「子どもを持つこと」「子育て」の三分野に分けて、施策のロジックモデルを想定し、ロジックモデルに沿う形で質問項目の作成を行った（図 I-1）。

調査票設計に当たって、ロジックモデルを導入した理由（メリット）と留意点は図 I-2 の通りである。

次ページ以降、図 I-3 から図 I-5 に本調査で検討したロジックモデルを示した。

図 I-1 EBPMを強化する調査票設計におけるロジックモデルの導入

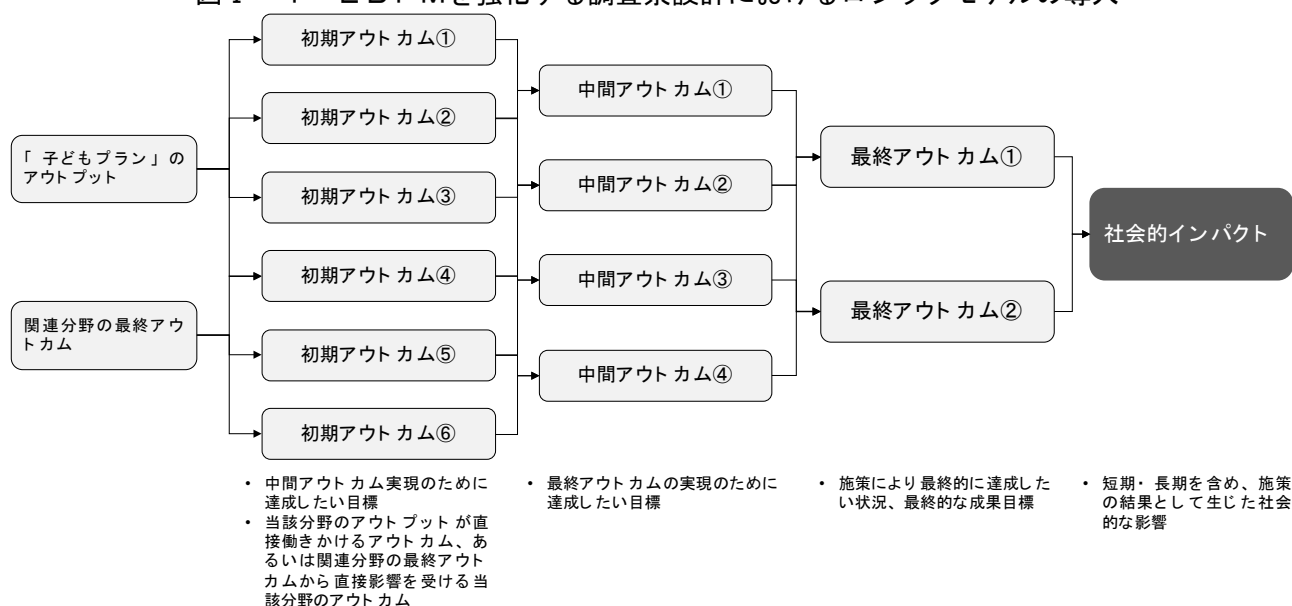


図 I-2 調査票設計に当たってロジックモデルを導入するメリットと留意点

(長所)

① ロジックモデルに基づき意識調査を設計・実施することにより、質問間の因果関係が明らかになり、アウトカムをもたらす施策の必要性を示すことができる。結果として、プラン策定の際に、意識調査の結果を利用することでEBPMを強化できる。

② 調査票設計に当たって、社会的インパクトに到達する道筋やアウトプット間の因果関係から各質問の必要性を体系的に整理でき、質問項目の漏れや重複のチェックが容易になる。

③ 質問項目の一覧性が高まり、関係者の中でロジックを共有しながら効率的な検討が可能になる。

(留意点)

④ ロジックモデルは、社会的インパクトから始まって、アウトカム→アウトプット→アクティビティ→リソースの方向（図の右から左へ）で施策を検討することが多い。このため、現在、実施・計画している施策の実施のため必要となる質問項目（図の左から右へ）は十分検討できない可能性があり、別の検討が必要である。

⑤ ロジックモデルに表わされる因果関係はやや「単線的」であり、現実はずっと「複線的」であることに注意が必要である。

【ロジックモデルの導入】

・ 調査票設計に先立って、「結婚」「出産」「子育て」の三分野に分けて「子どもプラン」のロジックモデルを想定し、ロジックモデルに沿う形で質問項目の検討を行う

図 I - 3 「結婚」に関するロジックモデル

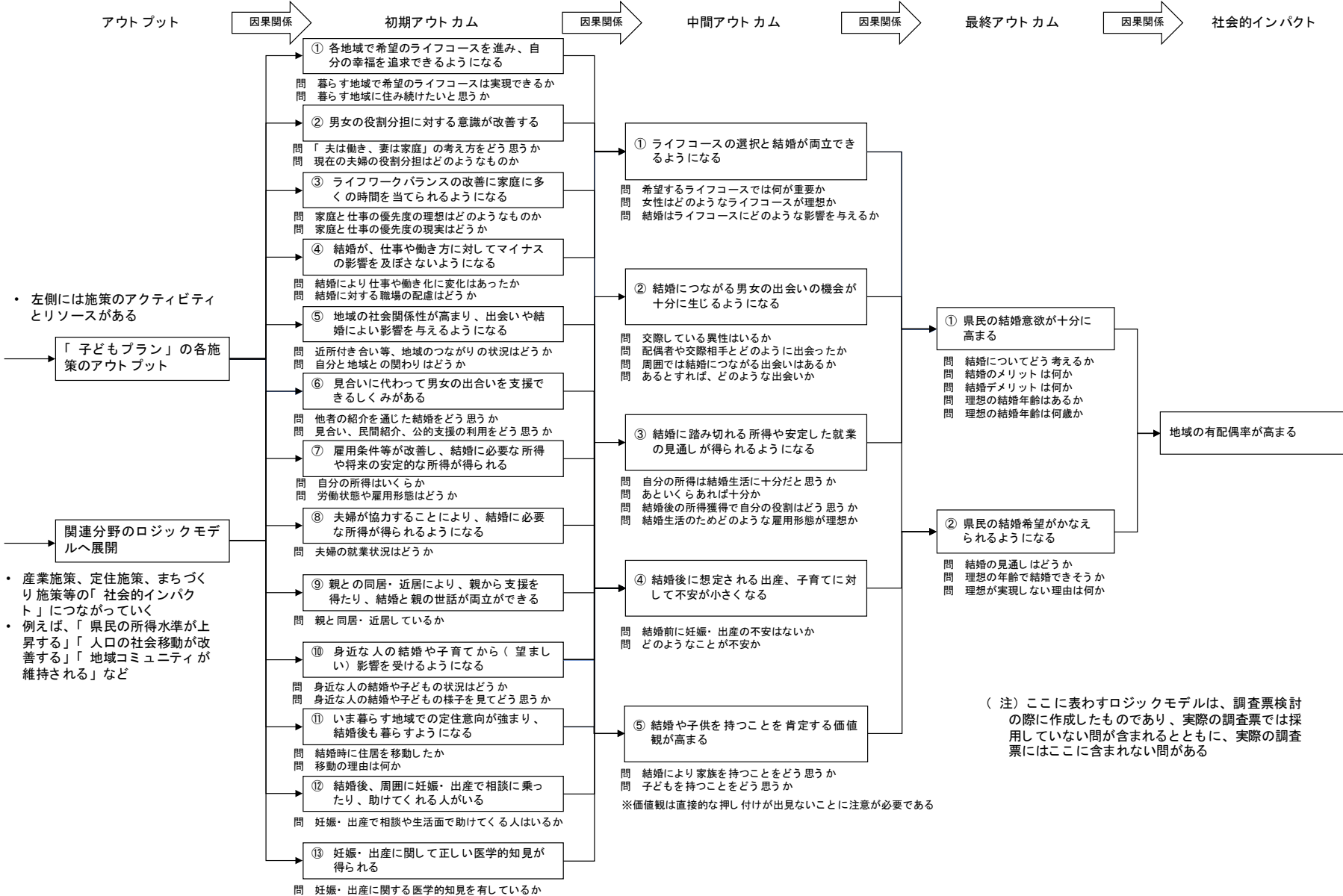
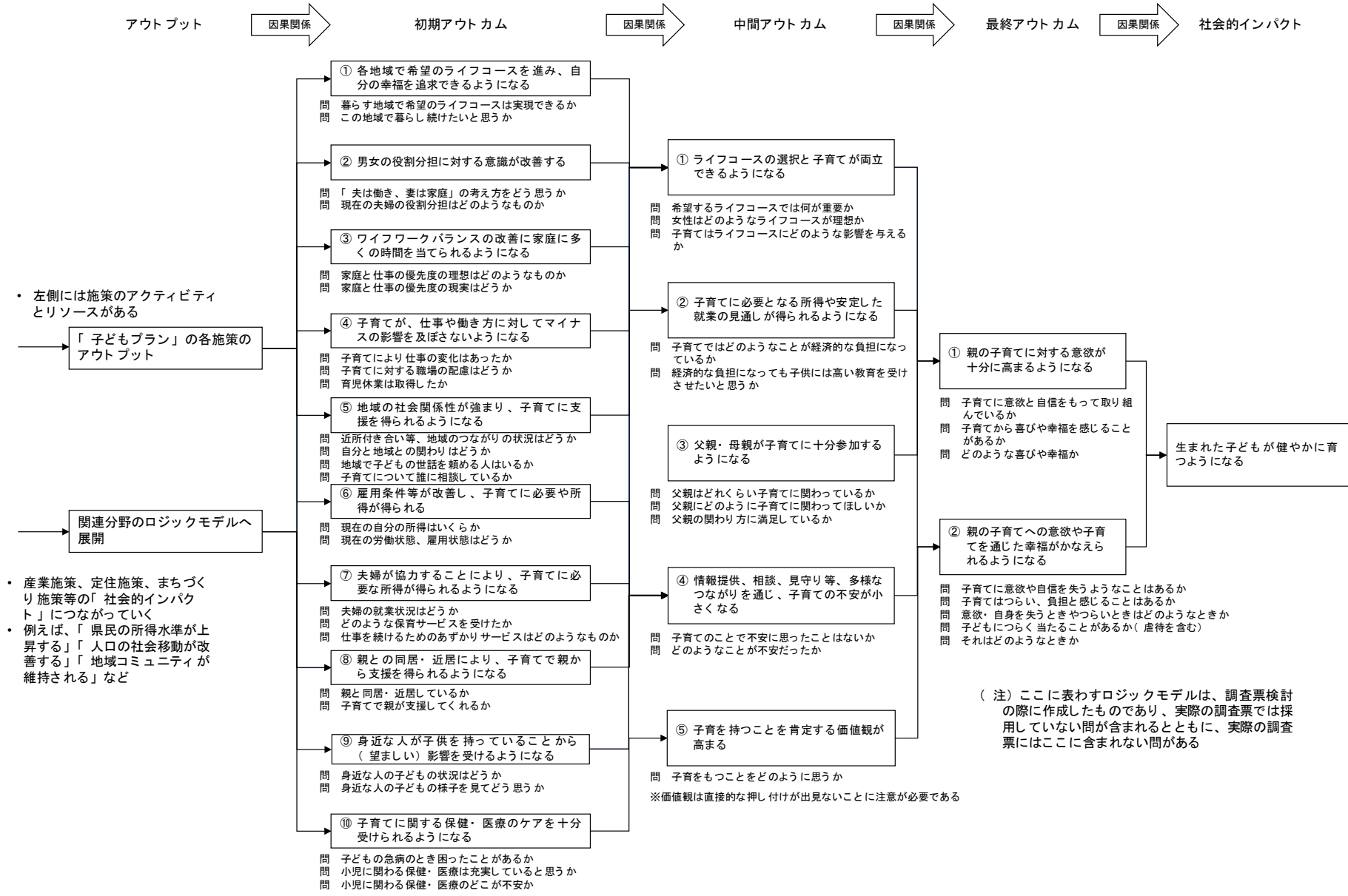


図 I-4 「子どもを持つこと」に関するロジックモデル



図 I-5 「子育て」に関するロジックモデル



(2) 集計・分析の方法

回答の集計に当たっては、単純集計や県民局別集計に加え、結婚、妊娠・出産、子育てを支援する施策のEBPMやPDCAに調査結果を活かすため、回答者の価値観や行動を計量化し、ロジックモデルに従って質問間の因果関係等を明らかにする分析を行った。

①質問項目間の因果関係の分析

ロジックモデルで想定した因果関係に基づき、主に以下の方法により質問間の関係を把握する統計分析を行った。

- ・クロス集計表の作成による表側・表頭間の関係の有無の検定（P値の算出）と関係の明確さの計測（クラメールの連関係数の算出）
- ・クロス集計表における表側の事柄が表頭の事柄に及ぼす影響の強さの計測（オッズ比の算出）

P値

本調査で、クロス集計表やクロス集計を行ったグラフに付記したP値は、サンプル数と、表側項目別の表頭の回答差に基づき、表側と表頭が無関係であることを検定した結果である。P値が十分に小さい（0.1以下）と、統計的に表側項目により表頭の回答に差があるといえることができる。

クラメールの連関係数

クラメールの連関係数はクロス集計表における表側と表頭の相関関係の明確さを示す。0から1の間の数値をとり、1に近いほど相関が明確であり、ゼロに近いほど無相関であることを示す。相関分析における相関係数の絶対値に当たる統計量である。クロス集計表の場合、クラメールの連関係数が0.2～0.3を超えるとグラフで明確な相関が見られるようになる。

2×2のクロス集計表ではクラメールの連関係数の代わりにファイ係数を利用する。数値の解釈はクラメールの連関係数と同じである。2×2より項目数が多いクロス集計表のときにクラメールの連関係数を用いる。

オッズ比

オッズ比は2×2のクロス表において表側と表頭の事柄の関連の強さを測る指標である。表頭の事柄がAとBのどちらかとするとき、表側が変化したときに、表頭のBという事柄に対してAという事柄が何倍起こりやすくなるかを表す。二項ロジスティック回帰分析では関係の強さを示す指標として回帰係数に代わりにオッズ比を解釈する。

本報告では、オッズ比に基づき、表側の事柄が表頭の事柄に与える影響の強さについて以下の通り表現する。

オッズ比	1.2以上 1.5未満	弱い影響力
	1.5以上 2.0未満	強い影響力
	2.0以上 3.0未満	かなり強い影響力
	3.0以上	極めて強い影響力

②回答の点数化と統計分析

本調査では、結婚観や子ども観といった回答者の価値観やライフスタイルを把握するため、リッカー形式（そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらかといえばそう思わない、そう思わないなど、選択肢が順序化された質問形式）により、価値観やライフスタイルを表す複数の質問を行った。

リッカー形式で把握された回答を点数化した後、因子分析により複数の質問間の相互関係を

把握した上で、複数の質問を主成分分析により合成し、価値観やライフスタイルの概念を表す指標を作成した。

上記で作成された指標を利用して、他の質問とのクロス集計表による分析や相関分析を実施した。

因子分析

個々の回答者の回答の傾向に基づき、複数の質問を対象に、できるだけ似通ったもの同士はまとめ、反対に異なる質問は分けて、新しい指標をつくり出す手法である（分解の分析）。このとき、因子分析は、似通った回答の質問があるのは、それらの質問の背後に、ある共通の要因（因子）が働いているのではないかという問題意識により分析を行う。

主成分分析

個々の回答者の回答の傾向に基づき、複数の質問を新しい指標（主成分）にまとめる手法が主成分分析である（合成の分析）。第一主成分は点数化された回答から総合的な傾向を抽出するよう質問をまとめたものであり、第二主成分は点数化された回答から対立軸をつくり出すよう質問をまとめた指標である。主成分得点は、各サンプルが保有する新しく生成された主成分のスコアである。

主成分分析により作成した指標を利用したクロス集計

主成分分析により生成された第一主成分や第二主成分の主成分得点を分析軸としてクロス集計を行うときは、主成分得点は標準化されているため、その区分を、平均値（ゼロ）と標準偏差（1）を境にした4カテゴリーとした。

低い（弱い）	: -1 未満
やや低い（やや弱い）	: -1 以上 0 未満
やや高い（やや強い）	: 0 以上 1 未満
高い（強い）	: 1 以上

③ 仮想の出生率の算出

本調査では、理想の子ども数や現実に持てる子ども数を把握した。これらの回答結果を利用して、希望出生率や予想出生率の算出が可能である。これらの出生率を人口置換水準（2.07）と比較するほか、例えば結婚意欲別の理想の子ども数から希望出生率を計算すれば、結婚意欲の出生率に対する影響を直接検討できる。こうしたことから、理想の子ども数や現実に持てる子ども数に対していくつかの視点からクロス集計を行い、仮想の出生率を算出した。

④ 男女別集計

結婚、子どもを持つこと、子育てに関する意識や、社会経済環境から受ける影響は男女で差が大きい。そこで、本調査における集計・分析は男女別に行うことを基本とした。

⑤ 岡山県全体の単純集計の方法

本調査の標本は3県民局ではほぼ同数となっている。そこで、岡山県全体の単純集計は、平成27年国勢調査における20-49歳人口構成比等をウェイトとし、県民局別集計の加重平均を算出した。

上記の集計を行ったグラフ等には「ウェイトバック集計である」と注記した。

⑥ 過年度調査との比較

施策の目標値等になると考えられる重要な質問は、第V章において回答結果を岡山県の過年度調査と比較した。

⑦その他**i) 不明回答の取り扱い**

本分析では、多様な視点からクロス集計を実施するため、不明回答の大きさが表側・表頭の関係分析に無視できない影響を及ぼす。そこで、すべての分析において不明回答を除く集計を行った。このため、質問によりサンプル数が異なる。

ii) サンプル数の表記

クロス集計表等をグラフに表すときは、グラフの括弧内にサンプル数を示した。

iii) 単数回答・複数回答の表記

図表の表題に、質問が単数回答であるときは「単数」、複数回答では「複数」と表記した。また、直接数字を記入する問の集計は「数量」と表記した。

iv) 四捨五入の影響

図表では主に回答の割合を示しており、四捨五入のため内訳の計が100にならないことがある。

(3) 第三群（高校生調査）の特徴

高校生は、一般意識調査の対象である20～49歳の県民と比較して、以下の四つの特徴を持つと考えられる。

- ①20歳～49歳を対象とする一般意識調査よりも年齢層が低い
- ②対象者のすべてがライフイベントのうち「大学進学」と「就職」を経験していない
- ③進学や就職に伴う人口移動前の県内出身者がほとんどを占める
- ④結婚、子どもを持つことに関する高校生の回答はすべて「期待（予想）」である

こうしたことから、高校生調査の集計・分析は、家庭環境や育った地域の違い等はあるものの、結婚や子どもを持つことに関して岡山県民の「原初状態」を捉えていると考えることができる。

(4) 報告書の構成

①本報告書と詳細分析・資料編の作成

質問項目間の詳細なクロス集計や、回答の点数化による集計等を行ったことにより調査報告書のページ数が膨大になったため、本報告書とは別に「詳細分析・資料編」を作成した。

詳細分析・資料編には今回集計・分析を行ったすべての結果が収録されている。本報告書は、詳細分析・資料編から主な集計・分析の結果を掲載したものである。すべての質問項目の県民局別集計や基本属性の状況、調査票等は詳細分析・資料編に掲載した。

②本報告書の構成

本報告書は全6章からなり、第I章で調査要領を示した上で、第II章から第IV章までは第一群から第三群の集計・分析結果を記載した。第V章は岡山県の過年度調査との比較であり、第VI章において今後施策を検討するための要検討事項を集計・分析のまとめとして整理した。

このうち、結婚と子どもを持つことを中心にロジックモデルの全般にわたって調査した第一群は、ロジックモデルに従って、社会的インパクトに近い最終アウトカムから、中間アウトカム、初期アウトカムの順に、質問の集計・分析を行った。

本調査における分析の考え方やロジックモデルの検討、調査票の設計に当たっては、国立社会保障・人口問題研究所の鎌田健司室長（人口構造研究部）と意見交換を行い、アドバイスを頂いた。ここに心よりお礼を申し上げます。

3. 回答者の基本属性

以下に、基本的なクロス集計等を行う際、分析軸となる住所地（県民局）、性、年齢等について、回答者の実数と全体に占める割合を示した。その他の属性は資料編においてまとめた。

(1) 第一群調査

表 I - 2 回答者の住所地、性別、年齢

(実数)

区分		20 歳代	30 歳代	40 歳代	不明	合計
備前局	男	73	102	151	-	326
	女	111	168	227	-	506
備中局	男	74	128	150	-	352
	女	100	182	249	1	532
美作局	男	77	125	173	1	376
	女	110	187	261	2	560
不明	男	1	-	2	-	3
	女	2	1	6	-	9
県計	男	225	355	476	1	1,057
	女	323	538	743	3	1,607
再掲	備前局	184	270	378	0	832
	備中局	174	310	399	1	884
	美作局	187	312	434	3	936
	不明	3	1	8	-	12
	県計	548	893	1,219	4	2,664

(全体に占める割合)

区分		20 歳代	30 歳代	40 歳代	不明	合計
備前局	男	2.7	3.8	5.7	-	12.2
	女	4.2	6.3	8.5	-	19.0
備中局	男	2.8	4.8	5.6	-	13.2
	女	3.8	6.8	9.3	0.0	20.0
美作局	男	2.9	4.7	6.5	0.0	14.1
	女	4.1	7.0	9.8	0.1	21.0
不明	男	0.0	-	0.1	-	0.1
	女	0.1	0.0	0.2	-	0.3
県計	男	8.4	13.3	17.9	0.0	39.7
	女	12.1	20.2	27.9	0.1	60.3
再掲	備前局	6.9	10.1	14.2	0.0	31.2
	備中局	6.5	11.6	15.0	0.0	33.2
	美作局	7.0	11.7	16.3	0.1	35.1
	不明	0.1	0.0	0.3	-	0.5
	県計	20.6	33.5	45.8	0.2	100.0

(注) 表 I - 1 の回収数 2683 件には性別不明 19 件が含まれる

表 I - 3 回答者の性別の配偶状況

(人、%)

区分		未婚	配偶者あり (初婚)	配偶者あり (再婚)	配偶者なし (離別・死別)	不明	合計
実数	男	357	621	46	31	2	1,057
	女	365	1,062	78	102	-	1,607
	合計	722	1,683	124	133	2	2,664
全体に占める割合	男	13.4	23.3	1.7	1.2	0.1	39.7
	女	13.7	39.9	2.9	3.8	-	60.3
	合計	27.1	63.2	4.7	5.0	0.1	100.0

(2) 第二群調査

表 I - 4 回答者の住所地、性別、年齢

(実数)

(人)

区分		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	不明	合計
備前局	男	1	-	47	22	8	1	79
	女	2	78	666	329	5	24	1,104
備中局	男	1	-	36	35	6	-	78
	女	5	73	700	331	8	20	1,137
美作局	男	-	2	39	35	3	1	80
	女	4	78	520	245	2	12	861
不明	男	-	-	1	-	1	-	2
	女	-	2	5	2	-	1	10
県計	男	2	2	123	92	18	2	239
	女	11	231	1,891	907	15	57	3,112
再掲	備前局	3	78	713	351	13	25	1,183
	備中局	6	73	736	366	14	20	1,215
	美作局	4	80	559	280	5	13	941
	不明	0	2	6	2	1	1	12
	県計	13	233	2,014	999	33	59	3,351

(全体に占める割合)

(%)

区分		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	不明	合計
備前局	男	0.0	-	1.4	0.7	0.2	0.0	2.4
	女	0.1	2.3	19.9	9.8	0.1	0.7	32.9
備中局	男	0.0	-	1.1	1.0	0.2	-	2.3
	女	0.1	2.2	20.9	9.9	0.2	0.6	33.9
美作局	男	-	0.1	1.2	1.0	0.1	0.0	2.4
	女	0.1	2.3	15.5	7.3	0.1	0.4	25.7
不明	男	-	-	0.0	-	0.0	-	0.1
	女	-	0.1	0.1	0.1	-	0.0	0.3
県計	男	0.1	0.1	3.7	2.7	0.5	0.1	7.1
	女	0.3	6.9	56.4	27.1	0.4	1.7	92.9
再掲	備前局	0.1	2.3	21.3	10.5	0.4	0.7	35.3
	備中局	0.2	2.2	22.0	10.9	0.4	0.6	36.3
	美作局	0.1	2.4	16.7	8.4	0.1	0.4	28.1
	不明	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.4
	県計	0.4	7.0	60.1	29.8	1.0	1.8	100.0

(注) 表 I - 1 の回収数 3391 件には性別不明 40 件が含まれる

(3) 第三群調査

表 I - 5 回答者の住所地、性別、学年
(実数)

(人)

区分		二年生	三年生	不明	合計
備前局	男	176	190	2	368
	女	250	192	-	442
備中局	男	206	292	-	498
	女	236	115	1	352
美作局	男	263	201	4	468
	女	348	52	1	401
不明	男	11	9	2	22
	女	13	6	2	21
県計	男	656	692	8	1,356
	女	847	365	4	1,216
再掲	備前局	426	382	2	810
	備中局	442	407	1	850
	美作局	611	253	5	869
	不明	24	15	4	43
	県計	1,503	1,057	12	2,572

(全体に占める割合)

(%)

区分		二年生	三年生	不明	合計
備前局	男	6.8	7.4	0.1	14.3
	女	9.7	7.5	-	17.2
備中局	男	8.0	11.4	-	19.4
	女	9.2	4.5	0.0	13.7
美作局	男	10.2	7.8	0.2	18.2
	女	13.5	2.0	0.0	15.6
不明	男	0.4	0.3	0.1	0.9
	女	0.5	0.2	0.1	0.8
県計	男	25.5	26.9	0.3	52.7
	女	32.9	14.2	0.2	47.3
再掲	備前局	16.6	14.9	0.1	31.5
	備中局	17.2	15.8	0.0	33.0
	美作局	23.8	9.8	0.2	33.8
	不明	0.9	0.6	0.2	1.7
	県計	58.4	41.1	0.5	100.0

(注) 表 I - 1 の回収数 2577 件には性別不明 5 件が含まれる